２０２６．１１．２

２０２６年１０月の金融経済概況のポイント

■全体感

- 今月の総括判断は、「一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに持ち直している」としています（判断を１２か月連続で据え置き）。

■個人消費の動向

- 個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、底堅く推移しています。

（財消費関連）

- 大型店売上高は、底堅い動きとなっています。家電販売は、持ち直しの動きが一服しています。
- 乗用車販売は、横ばい圏内の動きとなっています。

（観光関連＜インバウンド需要を含む＞）

- 観光・旅行は、横ばい圏内の動きとなっています。空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数合計、ホテル・旅館宿泊客数、観光施設（旭山動物園、層雲峡、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリー、ウトロ温泉）の入込客数合計は、いずれも前年を上回りました。

■公共投資の動向

- 公共工事請負金額は、高水準で推移しています。

■住宅投資の動向

- 住宅投資は、弱めの動きとなっています。新設住宅着工戸数をみると、弱めの動きとなっています。

■雇用情勢

- 有効求人倍率は、求職と求人が拮抗して、１倍前後で推移しています。企業の人手不足感や採用意欲は強く、雇用情勢は緩やかに改善しているとみられます。

以　上